

5 認知症の人にやさしい地域づくり

＜認知症基本法に基づく認知症施策推進計画＞

〇概要

令和5年（2023年）には、認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支えあいながら共生する活力ある社会（共生社会）の実現を目指す認知症基本法が成立しました。

町ではこれまでの取り組みに加え、法の基本理念を意識し、「認知症の人が自らの意志によって日常生活及び社会生活が営むことができるようにすること」、「町民が認知症に関する正しい知識及び認知症の人に関する正しい知識を深めるようにすること」、「認知症の人が生活を営む上で障壁となるものを除去すること」、「認知症の人が意見表明・社会参加の機会を確保すること」、「本人及び家族等の支援をおこなうこと」、について取り組んでいきます。

＜課題＞

- ・75歳以上の高齢者の増加に伴い、認知症状を持つ高齢者が増加する一方で、独居や高齢夫婦のみの世帯が増えていることから、早期発見や初期対応が遅れがちです。
- ・まだ大丈夫、と認知症状を軽視する・正しい理解・知識が十分でないことに加えて、認知症の相談窓口を知らない住民が多い状況があります。
- ・認知症と診断された後、地域で暮らし続ける上での本人や家族が安心できる居場所がない・時間をともに過ごす支援者がいないことから、家族の孤立や疲弊が進みます。地域生活を支える資源（認知症見守り協力団体すまいる、オレンジカフェ、認知症サポーター等）もありますが、認知されず十分活用されていない状況があります。
- ・失敗をしたくない、危険の回避などから、本人の意欲や自信の喪失が起き、外出を控えるなど、閉じこもりがちになり、認知症状がより進行します。
- ・認知症の方が外出しにくい（希望を叶えられる受入先がない、受け入れる側が対応できない）環境があります。
- ・仕事と介護の両立、近所付き合いの希薄化、誰に相談していいかわからない、などの状況から、ケアする家族は疲弊し、辛い思いを抱えがちです。

〇ありたい姿に向けての施策の展開

| インプット   | アクティビティ                                                                                                                                                                      | アウトプット                                                                             | アウトカム                                                                                                                      | インパクト                                                                                                       |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 誰に      | どう動かさける                                                                                                                                                                      | まずどんなって【直接の結果】                                                                     | 何が変わる                                                                                                                      | ありたい姿                                                                                                       |
| 本人      | ◎ 語れる場の設置<br>ゆるりカフェ（本人ミミインガ）<br>オレンジカフェ等<br>◎ 聴き役になれる場の設置<br>ピアカウンセリング                                                                                                       | ◎ 認知症の早い段階で専門職や支援者と出会う・支援が開始される                                                    | ◎ 専門職や支援者との継続的な関わりがある<br>不安や戸惑いが減る<br>・仲間がいてと感じ、前向きに日々を過ごす<br>やりたい活動への意欲が芽生える<br>活動への一歩を踏み出す<br>・活動への意欲と自信を持っている<br>・活動の継続 | 認知症を特別ではなく、誰もがなりうると捉え、やりたいことを言葉に出せる<br>希望を持ち、なじみの仲間となじみの場所で行いたいことを続けることができる<br>歳を重ねても、介護が必要になっても、ふつうに暮らせるまち |
| 家族・親族   | ◎ 語る・相談する・交流する場の設置<br>のぞみの会、男性介護者、オレンジカフェ等<br>◎ 男性介護者同士の繋がりや専門職との連携の必要性を知る<br>男性介護者の会（定期開催）                                                                                  | ◎ 認知症の早い段階で専門職や支援者と出会う・支援が開始される                                                    | ◎ 専門職や支援者との継続的な関わりがある<br>・孤立感を感じにくい<br>・本人の日々の変化を受け入れる<br>活動の協力や応援ができる<br>・本人を取巻く関係者等との良好な関わりが持てている                        |                                                                                                             |
| 友人・知人   | ◎ 認知症本人が外出や活動を続けるために自らがサポートであること認識できる<br>・認知症に関する正しい知識を得る<br>・本人の変化に気づく力を学ぶ                                                                                                  | ◎ 認知症本人の外出ややりたいことを積極的に進めるよう理解や共感が広がる                                               | ◎ 専門職や支援者との継続的な関わりがある<br>認知症への正しい知識や理解が広がる・深まる<br>『認知症は自分には関係ない』という意識が覆れる<br>本人を中心とした活動に参加する                               |                                                                                                             |
| 地域社会    | ◎ 認知症本人とその活動への正しい理解と活動事例の横上げ<br>・地域活動団体、医療関係者、「すまいる」団体等への協力呼びかけ<br>・閉じこもり活動する重要性・必要性発信<br>・認知症地域支援推進員やキャラバン・メイト等が活動と地域資源のマッチング<br>◎ 本人の活動と地域資源のマッチング<br>・「すまいる」、他企業・学校等と協働企画 | ◎ 認知症本人がやりたいことを続ける意義を知り、活動に繋げる機会が増加する<br>◎ 活動や外出時の変化に早期に気づく<br>◎ 活動への関心者・協力団体が増加する | ◎ 地域に認知症本人や家族が参加しやすい・相談しやすい雰囲気が生まれる<br>◎ 本人の活動に必要な資源や足りない資源や課題の整理ができている<br>◎ 地域に活動できる場や居場所数が増えている<br>◎ 具体的な事例の支援が行われている    | ◎ 地域の活動団体、医療関係者等が連携し、本人がやりたい活動が可能になる                                                                        |
| 医療福祉専門職 | ◎ 本人の活動を支援するための専門性の向上・相談窓口強化<br>・本人がやりたいことを声の聴く機会を持つ<br>・地域に仕向く協力団体と顔の見える関係を作る・強化する                                                                                          | ◎ 本人の声から希望する活動へ繋ぐ                                                                  | ◎ 専門職が地域組織等と協力し、認知症の方の具体的な事例の支援が行われている                                                                                     | ◎ 地域社会やその関係者に向けて、本人のリスクや失敗を受容できるような正しい知識を伝え続けている                                                            |

【モニタリングする指標】

| 指標の内容                                | 令和8年<br>現在                       | 令和9年<br>目標                  | 令和10年<br>目標                      | 令和11年<br>目標 |
|--------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|----------------------------------|-------------|
| 認知症サポーター養成講座<br>開催回数・受講者世代           | 小学生1回<br>大人2回                    | 小中学生対象 年各1回<br>成人対象 年3回以上   |                                  |             |
| 地域の人（支え手）と出会い<br>過ごす場（オレンジカフェ等）      | 7か所                              | 調査項目として設定し<br>前年以上の取り組みを目指す |                                  |             |
| 専門職・関係機関等向けの研修開催                     | 多職種合同<br>ケアカンファレンス<br>ケアマネ会      | 年2回以上                       |                                  |             |
| 認知症サポーター、キャラバン・メイト、民間企業等と協同した企画運営の回数 | 5回（R7）                           | 継続                          |                                  |             |
| 認知症に関する相談窓口を知っていますか                  | 元気高齢者<br>21.5%<br>居宅介護者<br>34.0% | -                           | 元気高齢者<br>25.0%<br>居宅介護者<br>35.0% | -           |

